

平成24年3月6日

3月・4月の管理ポイント



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第116号

今年の2月は例年になく寒暖の差が激しく、雨や雪も多い不安定な月となりました。3月からはひと雨ごとに気温も上がり、芝も動き出します。シーズンの始まりとして、しっかりと準備をしていきましょう。



レボ (REVO)

春先の灌漑管理が重要です...

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!

レボは土壌粒子の表面を極端に薄い膜で覆いますので、土壌中の空隙率がアップし、尚且つ、表層の過湿を防ぎます。グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え、下層に伸ばさせるためにも、この時期からの定期散布が重要となってきます。常に根が下に伸びやすい環境を整えてやり、夏が来るまでにしっかりと準備しておきましょう。

使用量：2ml/m² 散布水量：200ml～1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

新商品

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、様々な土壌環境にも適用できるように配合されています。製剤1g当たり約400億個の菌が配合されていますので、土壌中でも安定した効果が期待できます。

低価格に設定されておりますので、ラフ、FWなどの大面積散布にもご利用して頂けます。

使用量：ラフ・FW 0.1～0.2g/m² グリーン 0.5g/m² 散布水量0.2～0.5L/m²



グリーンメカ・メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために...

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。

特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。

休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。

使用量：5～10ml/m² 1L/m²以上



カラーマーカー・L

除草剤散布のマーキングには...

(カラーマーカーは当社の®です)

春の除草剤散布の際、散布済区のカラーマーカーに《カラーマーカー・L》を使用して下さい。

食用色素を主成分とした、環境にも配慮された商品ですので、安心してご使用いただけます。

従来の粉末タイプからリキッドタイプにすることにより濃淡(倍率)調整が容易になり、価格も安くなりました。

使用量：3000～5000倍(倍率は芝生や主剤の色あいにより自由に調節してください)

乳酸菌、バチルス菌の サッチ分解効果について

土壌中には、植物の生育に役立つ様々な有用微生物が存在します。乳酸菌やバチルス菌もその中の1つで、ゴルフ場では土壌環境を整える微生物として知られています。今回は、乳酸菌、バチルス菌が土壌中でどのような相乗効果をもたらしているのか、サッチを分解する過程から考えてみました。

FWのサッチ分解を想定した場合

スタート：更新作業を行った後に乳酸菌、バチルス菌が入った資材を散布

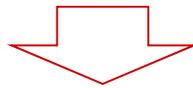
目的：バチルス菌の働きでサッチ(セルロース成分)を分解、更新で土壌深くまで通気性が確保されているので、バチルス菌の活性もアップします

土壌中のサッチはどのように変化しているのでしょうか？

土壌中は好気条件になり、
バチルス菌の菌数も増加



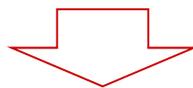
バチルス菌の働きでサッチ成分中のセル
ロースから糖への変換が促進



更新の孔が塞がり、増加した根量・バチルス
菌の呼吸により土壌中の酸素が不足(酸欠状態)



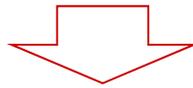
徐々に土壌中が嫌気条件に変化
する(土壌の腐敗が始まる)



ポイント!!

嫌気条件の土壌は、本
来なら根腐れを引き起
すが、乳酸菌の働きで腐
敗菌を抑制している!!

バチルス菌の活性が低下



バチルス菌によって
分解された糖がエネル
ギー源として利用される

乳酸菌の活性が高まる

~~腐敗型土壌~~

変化



発酵型土壌

乳酸菌から生成される乳酸は、肥料の吸収を促し、発根効果も期待できます。また、同様に生成される有機酸は、土壌中に不溶化しているミネラルを溶かし、植物の根が吸収できる状態にします。